

## 校友から現役へのエール 未来展望セミナー

### 「未来展望セミナー」に参加して



講師

米国企業勤務  
佐藤 恵子 (高40回)

この度、足掛け約3年に渡る高高と東京支部との連携を経て、記念すべき第一回「未来展望セミナー」の実施に講師として携わることができましたことを、心より感謝申し上げます。

今回、進路について真剣に考え始めるであろう現役の高高2年生に向けて、「あなたの可能性は無限大 ～なりたい自分へのプロデュースのために～」という演題にて、講演をさせていただきました。

私は、高高時代、悩んだ末関西の大学へ進学し、その後米国大学院留学を経て外資系企業（米国企業の日本法人での管理職）に従事しているのですが、講演依頼を頂いた当初、講演内容として高高生へ私の留学経験と国際的な業務についての情報提供を念頭に置いておりました。

しかし、講演の準備を進めるにつれ、留学での体験や業務内容だけでなく、私が「な

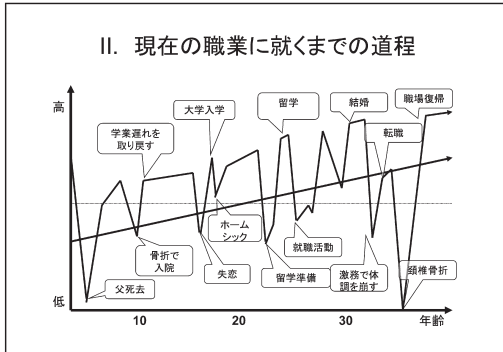
ぜ」、「どのように」進路を選択しキャリア形成に取り組んできたのか、その上で現在何をモットーとしているのかをお伝えし、少しでも後輩の皆さんの今後の人生の参考となることができれば、という思いが強まりました。このため、講演では「(留学を含む)現在の職業に就くまでの道程」、「現在の職務内容」、「今後のキャリア・人生設計について」、「高高生の皆さんへのメッセージ」の順にお話しいたしました。

「現在の職業に就くまでの道程」では、時系列で私の状況を説明(縦軸を私にとっての充実度として高低で折れ線グラフにて表示)しました。4歳での父の病死に始まり、英語が得意でない私にとり大変辛かった留学準備、帰国後の就職、更には復帰が難しいと思われたスキーでの衝突事故による頸椎骨折など、決して順風満帆とはいえないものの、これらの経験を通じ貴重な学びの機会を得られたこと、つきつめると「危機的状況が成長の機会となる」、「周囲の支えなしには存在し得ない」、「生涯学習が続く」ことを体得したことを伝えました。

また、これらの経験を通じ、生徒に向けて今後の進学・就職での目標達成を応援する「可能性を広げるためのヒント」として、

- 目標設定・計画・実行の重要性と具体的方法
- 目標達成に向けての心構え・態度
- 情報収集・ネットワークの必要性

の3点を説明しました。



特に2点目の心構え・態度については、「卒業後も生徒にこの言葉だけは覚えて欲しい」という一心で、講演中何度も“Will to Win”（達成・勝利への強い意志）を標語として起用しました。その甲斐あってか、後日生徒から「“Will to Win”の言葉が印象に残った」とのコメントを頂き嬉しく思います。

また、講演直後に複数の女子生徒から英語の勉強方法について質問を受けるなど、進学に向けての大変積極的な姿勢が感じられ、頼もしく感じると同時に応援したいという気持ちが更に強まりました。

最後に、本セミナーの実施にあたり、長期に渡り関係者のご尽力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。皆様のお力添えなしには、本セミナーの実現はなし得ませんでした。本当にありがとうございました。

また、今回の実績を生徒および学校側から高く評価いただき、第二回目の実施が決定したことを本当に喜ばしく思います。今後とも本活動に微力ながら応援させていただきたいと存じます。



講師

グラフィックデザイナー  
小竹 斉 (高35回)

パネラー二番手の私は、大学卒業後に企業へ就職し、現在まで「グラフィック・デザイン」に従事しております。大部分の高高生に縁の薄い職業と思いつつ、職業観が広がればとお受けさせていただきました。

当日はまず、明るくて若々しい新校舎を見学させていただき、そこで様々な制服を着た女子生徒を見て、軽い衝撃を受けまし

た。先生に事情を伺うと「ナンチャッテ制服と言いますか……好きな制服を買って着ているのです」と、話し辛そうに説明してくださいました。これを聞いて私は世代間ギャップを感じ、興味を持って話を聞いてもらえるか、心配になりました。

話はまず前半で、デザイナーの種類や「グラフィック・デザイン」の例を紹介し、造る・売る側の「利益」と消費者の「買う満足」を両立させる仕事で、「好きな事だけすればいいのではない」とお話ししました。

中盤は、職業に就く道筋は複数の道があり得ること、そして実務ではセンスの他に理解・連想・論理・言葉・造形など諸能力、

## 造・売・用・美

**造**：価格を抑え、買いやすい商品とする

**売**：どんな物を誰に売りたいか明確にする

**用**：日常的に使え、役に立つ商品とする

**美**：買う側の心をつかみ、売れる商品とする

それを支える基礎学力、教養や自ら学ぶ姿勢が必要とお話ししました。後から先生に伺ったところ、数人いるデザイン志望の生徒がここで、ハッと顔を上げたそうです。

後半は、「目標」を見つけ「準備」をして欲しい、「失敗したら……」と続けました。最後に、何より各自の「第一義」＝「目標」を見つけることが大切で、それがあって要／不要を取捨選択し実行できる、と結ばせていただきました。

最初は心配でしたが、生徒は熱心に聞いて

てくれたようで安心しました。

30分の制限時間は思ったより短く、話が前半に偏ったことは、反省点と考えております。

今回の準備で校是・校訓・校歌を振り返り、なんとよい言葉に囲まれていたのかと改めて感じ、高高生はこれらの言葉を日々噛みしめて欲しいと、質疑応答時にも繰り返し訴えさせていただきました。セミナー後の懇親会で、先生から校歌を歌えない生徒が増えていると伺って、その想いは一層強くなっております。

完璧なパネラーではありませんでしたが、この機会を与えて下さった校友会東京支部の皆様へは、感謝の念に堪えません。今後また、母校の役に立てる機会があれば、微力ながらご協力させていただきたく考えております。



### 講師

テレビジャーナリスト  
上野 邦治 (高15回)

「失敗・挫折は、人生において当たり前、何度くじけても、立ち上がり、自分が人生でやりたいこと、やらねばならないことを見つけて追い続けよう」を講演のテーマにしました。だから、挫折と心機一転を繰り返しながら、やりたいことを見つけてきた自

らの体験談を話しました。それが、未来に対する期待と不安を抱いている高校2年生に励みと啓示を与えることになると思ったからです。

物理・化学が苦手にもかかわらず無謀にも商船大学を目指して沈没したロマンチスト、現役時代の挫折。安易に選択外国語としてドイツ語を選んでしまって大学1年の時に留年（動詞の活用変化は苦手）。でも、「人間万事塞翁が馬」。こうした挫折が、中国語（動詞の活用変化がない）への選択切り替えにつながり、それが人生を変えるき

っかけとなったことなどを語りました。

中国語を勉強し始めてから中国の現状への関心が高まり、現代中国論を専攻。以降は、一気に呵成に将来の展望が見えてきました。仕事は、北京特派員を目指そうと決めました。メディア研究のクラブにも加入。大学3年の夏休みに毛沢東語録一色の文化大革命下の中国を視察旅行。それが未来展望の決め手となりました。

こんな体験談を話しながら、「自分の夢を描くのには急ぐ必要はないよ！でも、決めた後は、追い続けよう！」と熱っぽく!?訴えました。

講演の後段は、フジテレビに入ってから、自分のやってきた取材活動の体験を語り、テレビ放送記者の仕事の面白さ醍醐味を語りました。幸い私が局を退職したときに後輩たちが作ってくれた私の新人時代からのレポートを集めた20分のVTR（ナレーション・字幕・音声効果入りの本格的なドキュメント）がありましたので、それを視聴してもらいながら語りました。

たとえば、金大中事件の時の拉致現場のホテルの部屋を最初に取材したスクープ。田中角栄元総理逮捕の際の東京地検玄関前での突撃インタビュー。(翌日のどの新聞1面にも角さんの横に上野記者の顔が並ぶ写



田中角栄元総理逮捕の瞬間 左側が筆者

真が掲載)。稲葉元法務大臣にインタビュー中にホッペを張られた衝撃映像（稲葉さんは答えたくない質問をかわすため蚊をたたき演技をした）。そして入社18年目にしてようやく夢が実現北京支局長に！天安門事件の発砲映像を世界に先駆けてスクープ放送（当局の押収をかわして撮影VTRを、翌朝1便の飛行機で乗客に運んでもらった作戦の勝利）など。

VTRを所々で止めては解説しました。高校生は私が自慢げに話していると受け止めたかもしれませんが、むしろ、それでいいと思っています。

「人生を意気を感じて仕事をやっている先輩がいるんだ。自分も有意義な人生を歩みたい！がんばろう！」と1人でも2人でも思ってもらえばこのセミナーは成功なんだ…と念じつつ講演を終えました。

## 未来展望セミナーを 実施して



コーディネーター

渡辺千恵美 (高35回)

OB / OG が自らの来し方・職業を語り、現役高校生の進路を考える手助けをした—そんな気持から「未来展望セミナー」は始まりました。昨年第1回目を無事終え、今年も9月に校友が懐かしい母校を訪ね、高校2年生に『未来展望セミナー』として講演をします。総合学習として母校の先生方と校友が一緒になってつくりあげる行事です。このセミナーがどうして始まったか、実際の生徒さんの反応はどうだったかをお話させてください。

3年前にひょんなことから、校友会東京支部の総会に出席し名刺交換していただくと多士済々。デザイナー、研究者、エンジニア、医師、税理士、等々広い分野で活躍されています。校友会をさらに知るにつれ、主婦の傍ら、ボランティアとして地域で活躍されたり、現役を退いた方も趣味の道を極めて会を主宰されたりといろいろです。(趣味が高じて楽器製作者になった方も!) こういった方々に年1回、総会で会うだけにしておくのはもったいないと思いました。

自分自身も当時40歳、人生の折り返し地

点にきて、こうすればよかったと思うことが多々ありました。本当は文学研究の道に進みたかったのに、浪人したらあきらめて無難に経済専攻、その後バブル時代に企業に就職。何も考えないその他大勢の学生だった自分でもここまで働き続けてくる間には汗・涙・感動・後悔といろいろあり、大学・社会に入ってから初めてわかったことを後輩に役立ててもらうために伝えたい—こんな内容を寄稿依頼された『雪椿』に送ると、掲載文をご覧になった先輩から声がかかりました。東京支部で同様の企画が動き始めたからよければ一緒にやってみようということで、校友会役員の遠藤次男さん(高14回)・滝沢一成さん(高27回)とエンジンをかけ始めたのです。

幸い、1回目は講師の方々のおかげで概ね好評のうちに終わることができました。概要をご報告します。

### 1. 実施概要

2007年10月2日(火) 13:15 ~16:00

講師のスピーチ(30分)及びQ&A

●講師：佐藤恵子(高40回、旧姓小杉)

演題：あなたの可能性は無限大

～なりたい自分へのプロデュース  
のために～

●講師：小竹 斉おたけ ひとし(高35回)

演題：「デザイナー」ってどんなことする人？

●講師：上野邦治(高15回)

演題：「なぜテレビ・ジャーナリストを志したか？」歴史の目撃者になる凄  
み！世相を読み解く仕事のおもしろ

ろさ！時代を創る意気込み！

## 2. アンケート結果概要

○対象：高田高校2年生 312名

(320名在籍、8名欠席)

○回収数：238名（回収率：76%）

- ポジティブな反応、△どちらでもない
- ×ネガティブな反応

○	△	×	空白	計
201	23	11	3	238
84.5%	9.7%	4.6%	1.3%	100%

### (1) ポジティブな反応

自分の将来を考えるうえで貴重な時間となった、今はすばらしい職業についていても挫折や失敗を乗り越えてきたのを知って自分も努力しようと思前向きな気持ちになれた、こういう先輩たちがいるなら自分も頑張らなければいけないと思った等の全般に共通する意見に加え、個々の講師への共感がみられる。

**佐藤氏**：佐藤さんのように世界を相手に働く人に憧れているので、とても興味をもって聞けた。特に“Will to Win”の気持ちはどの面でも大切なのだなと思った。

**小竹氏**：デザインはただ綺麗でカッコいいだけではないことがわかった。チャンスは逃すべきでないと思った。

**上野氏**：とくに感動したことは上野さんのお話です。私が持っていたアナウンサーのイメージとは違ってかなり体当たりで生き様を感じました。

### (2) どちらでもない：全体の約10%

表層的なコメントもあるが（突然すごい人になっちゃったというのがうらやましい）、社会的に認められるより身近を大切にという意見は、来年度以降の企画上、一考の必要あり。

### (3) ネガティブな反応：全体の約5%

環境の悪さ（テスト終了直後、部屋が暑くて眠い、後部ではモニターがみえない、うるさい、時間が長すぎる）に加え、社会的に活躍するOB／OGに対して、自分はどうせそうならないからというあきらめと反感がみえるコメントがあった。

幸い概ね好評でしたが、ネガティブな反応や約24%の「回答なし」層があったこともしっかり受け止めたいと思います。この生徒さんたちにも違ったアプローチがとれるよう、次回以降の作戦を考えています。

今後は、更に講師候補リストの充実を図りたく、現役高校生の視野を広げる為、多彩な分野・各年代の人材が必要です。ぜひ、自薦・他薦の講師候補のご連絡をお待ちしています。

年に講演していただくのは3人ですが、講演のほかにもメルマガで記事を書いたり、ただき発信することも検討しております。先輩としての人材の分野・年代を広げて、仰ぎ見る先輩だけでなく、身近な目標としてとらえられる先輩の話もききたいという声にも応えていきたいと考えております。

ご連絡はお気軽に、渡辺までお願いします。